

## IGS 理事会報告

IGS 理事 赤木俊允

IGS 理事会は、IS Kyushu '92 に先立つ11月9、10の両日、福岡市のガーデンパレスにおいて行われた。出席者は次の通りである。

R. K. Rowe 会長、R. Floss 副会長、J-P. Giroud 前会長、W. Voskamp 事務局長、P. Stevenson 経理担当理事の各役員、および M. Fukuoka、D. Cassuffi、S. D. Ramaswamy、J-M. Rigo、T. Akagi、R. J. Bathurst、B. R. Christopher、R. A. Jewell、C. J. F. P. Jones、C. Lawson、D. Price、D. Fayoux、F. Gousse、の各理事、総計18名。それに初日はインド支部代表の A. R. G. Rao がオブザーバーとして出席した。

主な議題およびその審議結果は次の通りである。

1) 従来からの懸案事項の一つとして、ジオテキスタイルのような一般的な用語の自由な使用を保証する方針を成文化することにした。過去においてこの種の用語を商標登録し自由な使用を妨げる事件が発生したことがある。ジルー前会長、プライス理事が次回までに文案を用意することとなった。

2) ボスキャンプ事務局長より、現在 IGS 全体の個人会員1241名、学生会員69名、法人会員48社、準法人会員7社、との報告。本年においてはオランダ支部(会員数100名)、インドネシア支部(20名)の加盟が認められた。次の名簿は、1993年版として来年2月に発行の予定。

3) 理事の選挙は、原則として、総会前に郵便投票を実施する、投票用紙には候補者をアルファベット順に並べ順位を付ける方式で行う、ことを確認した。

4) 候補者数が空席数に等しいかそれ以下の場合は、無投票で全員を当選とすることを確認した。今回は、6つの理事ポストに対し6人の立候補しかなかったため、無投票で全員の当選が決定した。次の6人の新理事は1992年7月1日付けで就任し、1996年までの任期となる。T. Akagi、R. J. Bathurst、B. R. Christopher、R. A. Jewell、C. J. F. P. Jones、C. Lawson

5) 準法人会員の新設の可否に関する郵便投票は、1992年7月17日に開票され、賛成466、反対34、無効2、で可決された。

6) 理事を2期勤められた福岡教授は、内規に定められた co-option 制により、ロウ会長の推薦を受け理事会の決定を経て、今回理事に復帰された。任期は次回総会の行われる1994年9月までとなっている。co-option とは、全会員の投票によらず、理事会内における推薦と互選による理事の任命制度。

7) 1991年度決算、1992年度予算の執行状況、1993年度予算が審議され、承認された。91年度は予算収入97500ドルに対し決算88226ドル、予算支出97550に対し決算は76286ドルであった。92年度は10月末現在で、予算収入99450ドルに対し実収が101103ドル、予算支出102250ドルに対し執行額は46824ドルである。93年度予算は、収入が124350ドルに対し、支出が123725ドルとなっている。

8) 法人会員には会員証として IGS ロゴ入りの木の楯を交付し、年会費の納入毎に年号入りの小札を送付して、これを楯にはめ込む方式を採用することとなった。

9) IGS の目的を推進し支持するための費用を賄う基金を年次予算から分離することについて、役員会で検討することになった。

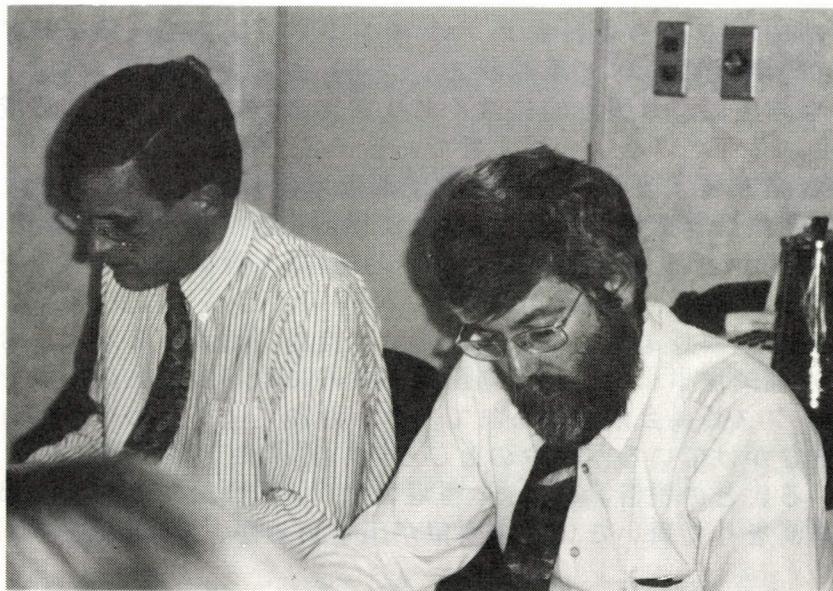
10) IGS の予備的基金として、年次予算とは別に最低10万ドルを常備し、非常時に備えることとする。役員会及び理事会は、非常時に対しこの最低額を切り下げる(例えば7万5千ドルにするといった具合に)ことができる。また、この基金運営のための管財人を設けることを役員会で検討する。

11) IGS の財政規模の拡大に伴い、より厳密な監査制度の確立が望まれる。下がって、今後は公認会計士による毎年の略式監査 (review) と4年に1度の正式な会計検査 (audit) を実施することとする。

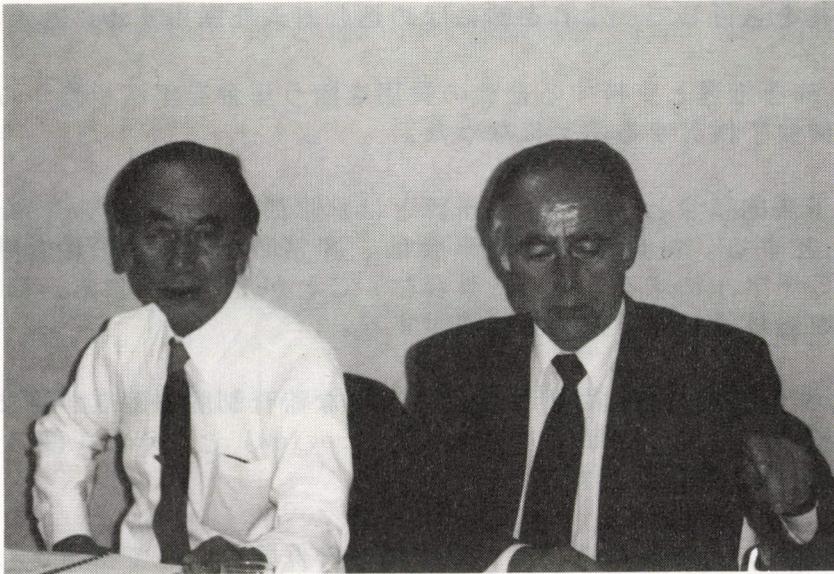
12) IGS の役員および理事の言動に対する免責保険について議論され、2000ドル以内なら速やかに保険を購入することを決定。また、IGS News などの出版物には必ず免責条項 (disclaimer) を明示し、これに対応して内規の変更を行うこととする。  
[注: 些細なことでもすぐ告訴され法的責任を問われる現今の欧米社会の風潮を反映して、反対意見は少なかった。]

13) 技術的・科学的問題についての質問や申立てを処理するための委員会を IGS 内に設けるため、ジルー前会長、ジョーンズ理事を中心に検討することとなった。

14) IGS 理事会は年1回になったとはいえ、これに出席するための旅費の工面は、



ロウ会長(右)とボスキャンプ事務局長



フロス副会長（右）と福岡理事

各理事にとって依然大きな問題である。福岡理事の発議により、理事の旅費に対する支援策が議論された。その結果、当面2000ドルの予算を計上し、急に旅費の工面ができなくなるような非常事態が発生した場合に限り、会長の判断により、必要旅費の50%を上限として支給できるようにする。会長は直後の理事会に報告し、その了承を得る。〔注：現在、役員に対しては、大陸間の移動を必要とする理事会出席についてのみ、IGS から旅費が支給されることになっている。〕

15) 新支部結成のための委員会： a) インドネシア支部、イタリア支部の発足については、前回理事会において承認済み。 b) カズフィ理事より、イタリア内のIGS 会員の投票結果により国内的にはイタリア支部の結成に対する賛成が得られたこと、現在個人会員27名、法人会員1社であることの報告があり、理事会は提出された支部内規を審議して、正式にイタリア支部を承認した。 c) ゲーセ理事より、フランス支部の内規案は作成済で IGS 役員会が検討中、12月中には支部結成に向けて国内の会合が開かれる予定とのこと。 d) リゴー理事より、ベルギーにはジオシンセティック委員会という組織があつて、1994年頃には支部になる見込みとの由。 e) フロス副会長より、来年にはドイツ支部が結成されるよう努力しているとの報告。 f) 福岡理事より、韓国地盤工学会内には約20名の委員で構成されたジオシンセティック委員会が設けられており、かねてよりそのうちの有力者たちに対し支部結成を働きかけているが、今のところ近い将来に支部を作りたいとの応答を得るに留まっている、との報告。 g) 香港では IGS 会員たちから一部の理事に対し訪問の際には講演をして貰いたいとの要望が出ているが、支部結成への新しい動きはないとの話。

16) ラマスワミ理事から、シンガポールにおいて1994年9月5-9日開催予定の第5回国際会議の準備状況、組織委員会の今後の方針について報告があり、これに

ついて審議した。その結果、a) 採用論文の選択方法について組織委員会に注文が出され、各論文の要約については、少なくとも3人の要約審査委員会委員によって審査されること、および IGS 規約に従って要約の審査を実施し、この委員会のメンバーは IGS 役員会の承認を得ること、の2点が組織委員会に対して要求された。b) 会議場については、Westin Hotel で会議、International Convention and Exhibition Center で展示のアイデアが示されたが、理事会の結論としては、会議と展示とは同一開場で開催するのが望ましいということとなり、組織委員会もこの方針に従い会場を Westin Hotel (展示用スペースがやや小さいのが一寸難) に絞って今後の準備を進めることとなった。

17) 第6回国際会議については、前回理事会で IGS 北米支部である北米ジオシンセティックス学会 (NAGS) からの招致の可能性が取り上げられたが、1992年7月13日付 NAGS 会長からの正式招待状を受け、これに決定した。

18) フロス副会長から、ヨーロッパ会議提唱の説明があり、時期も場所も未定ながら、組織委員会を発足させるため、特に欧州の各支部代表の参加を要請した。できれば建設資材見本市などに関連して開催し、コンサルタンツ、コントラクターなどにも参加して貰えるよう実務的かつ教育的なものにしたいとの意向、また東欧からの参加も期待したいとの由。その趣旨を了解しサポートすることを決定した。

19) 会議に関する委員会：ゲーセ理事より、他のジオシンセティックス関係の会議から IGS の賛助や支援を求められた場合の手続きについて報告。このような場合にまず会議主催者に記入し提出して貰うための質問表、次いで各理事に意見を記入し評価して貰うための採点表の原案が提出された。

20) IGS の名称変更：この件に関しては過去数年にわたって議論が交わされてきた。その論点は、国際ジオテキスタイル学会という名称の中のジオテキスタイルでは、対象とする種々の材料や製品をカバーしきれなくなっており、学会名にはこれに代わるより適切な表現が用いられるべきである、というものである。長期にわたる議論を受け、前回の理事会で2案に絞り各支部にその意見を問い合わせた。6支部から返答が寄せられたが、意見は割れたままである(現状のまま1票、B1案3票、B2案2票)。今回再び、長時間にわたる熱心な議論の末、学会(略称は IGS で変更なし)および4年毎の IGS 主催の国際会議の名称としては、次のような表現が理事会案として承認された。

学会名：IGS, the International Geosynthetics Society

Dedicated to the scientific and engineering development of  
geotextiles, geomembranes, related products and associated  
technologies

IGS 主催の国際学会の名称：International Conference on Geosynthetics

- Geotextiles, Geomembranes, Related Products  
and Associated Technologies -

今後の手続きとしては、次回の理事選挙の際に、全 IGS 会員による郵便投票にかけられ上記の案が可決されれば本決りとなる。名称変更に関しては、IGS News に既に数篇の論説が掲載されているが、IGS 本部としても郵便投票までには、今までのいきさつや主旨について更に一層の徹底を計るべく、全会員に対する PR を続ける予定である。

21) 投票方式および内規に関する委員会：字句上の訂正を主とする数件の変更を審議し、承認した。

22) 役員会より、表彰規定の改訂版が提示され、4年に1度の総会で表彰式を行うことを決定した。福岡理事からは、表彰委員会の人選には特に慎重を期すべきであること、また規定は厳重に遵守すべきであること、との発言があった。

23) 広報委員会：プライス理事から、IGSのPRパンフレットにつき、数種の見本の提示と説明があった。審議の結果、4ページの本格的なものと郵送用の小型で簡単なものの2種類作成すること、最終原稿は役員会の承認を受けること、編集に1000ドル、印刷に8000ドル、プレスリリースに4000ドルの予算をつけること、を承認した。この他、IGSのPRのために法人会員にもっと積極的な役割を果たして貰うこと、IGS出版物の拡販を計ること、ジオシンセティックス関係者に関するデータベースを構築すること、が議論された。

24) 教育委員会：カズフィ理事から、a) グローバルな規模でジオシンセティックスに関する博士論文のリストを作成し、IGS Newsに掲載する。また、これらに要旨を付けて Geotextiles & Geomembranes に載せるよう働きかける。b) イタリアのグループが多数の関連論文をレビューし、伊語の要約を作成したが、これを英訳しIGSから出版してはどうか、との提案。審議の結果、まず他のIGS会員に依頼してそれが出版するに値するものであるかどうかの審査を行い、可ならば1000-1500ドルの予算をつけて英訳し、IGS Newsに掲載するか、他の形で出版するかにする。c) 学生会員が減少気味であるが、これを増やすことの重要性、および学生支部が自



理事会初日を終えて



ジルー前会長（右）とカズフィ理事

主的にその地域に根付いた活動をするよう、また学生支部間の交流を計れるよう指導することの必要性が強調された。

25) 規準化委員会： a) リゴ-理事より、ジオメンブレンの試験法に関する情報の収集に手間取っているが、おおよそ150件の試験法をまとめてA4で50ページ程度の出版物とし、Geosynthetics '93 Conference 迄には完成して配布できるようにしたいとの報告があった。また、各種の規格と施工法・設計法の規準のリストを作成しこれらを技術的に検討する技術委員会をIGS内に設けることが提案され、承認された。 b) 福岡理事より、現在ジオテキスタイル試験法の一本化を計り、JIS原案作成への準備を進めているとの報告。CENの委員長であるリゴ-理事やISOの委員であるマイルズ前理事からの協力が要請されると共に、ISOとASTMとの間の整合性に関しより緊密な欧米間の交流を促す発言があった。

26) 出版委員会： a) IGS Newsの編集長であるバタースト理事からは、もっと会員からの意見が欲しい、また種々のケースヒストリー、各地での会議や出版物についてのニュースなどを寄せて欲しい、との要望が出された。 b) Geotextiles & Geomembranesは年6回から8回の発行となったが講読料も値上げとなった。IGS会員は40%の割引きをして貰う特典を持つことをもっとPRするべきである。 c) 記号と用語のリスト、参考文献、資材や製品に関する情報などをまとめて、IGS Information Bookと題する小冊子を作成することとする。 d)ジルー前会長からは、Geosynthetic Bibliographyと題する国際的にも年代的にも広範囲にわたるジオシンセティックス関連の文献リストをほぼ完成し、IFAI (Industrial Fabrics Association International) によって出版される予定になっているが、IGSの賛助を得ているという形を出したいとの要望が出され、これを承認した。Geosynthetics '93迄には第一版を出し、その後記載洩れの文献を追補して1994年末迄には完全なものにしたいとの計画である。ジルー氏より、日本からの論文の収録が特に手薄である

とのことで緊急の協力を要請された。〔注：英文要旨の付せられた文献ならば基本的には何語でもよいとのことであり、日本支部としては急遽、第7回までのジオテキスタイル・シンポジウム発表論文集を始め、土木学会論文集、土質工学会論文報告集、土と基礎、等に掲載された関連の論文をまとめ発送した。ジル－編の文献リストに収録されるべき文献について、お気付きの点があれば当方にご連絡下さるようお願いする。〕

27) 会員の特典に関する委員会：ファイユ－理事は、会員の利用に便利なジオシンセティックス関係の文献データベースの構築を提案したが、資金の問題もあり、実際にはこれに近いものが既に、例えば AIT の AGE に存在しているのではないかと、との指摘もあった。しかし、ソフトウェアのデータベースの必要性は高いと思われるので、今後リゴ－理事を中心に1993年末を目標とし、このようなデータベースを作成することとなった。

28) IGS の委員会の新委員長は、互選により次のように決定した。\* 印は留任である。

Committee for Development of New Chapters: R. Floss\*  
Education Committee: D. Cazzuffi\*  
Standards Committee: J-M. Rigo\*  
Voting Procedure/By-laws Committee: R. A. Jewell  
Benefits and Membership Committee: D. Fayoux\*  
Conference Committee: F. Gousse  
Promotions Committee: P. Stevenson  
Publications Committee: C. J. F. P. Jones  
Technical Committee: C. Lawson

29) 最近結成されたヨーロッパの業界団体である EAGMID (The European Association of Geosynthetic Manufacturers & Distributors) との交信および今後の関係について、ロウ会長とプライス理事から報告を受け、了承。

30) フランスの委員会から、J. Perfetti 前理事の後任としてフランス代表を一人 co-option により理事会に加えて貰いたいとの要望が出されていたが、現在既に co-option による理事が4人になっていることもあり、今回は見送ることとなった。

31) 記号 (シンボル) に関する報告書を修正し各理事に送付、同時に新技術委員会で検討する、CEN からのコメントはローソン理事が取り次ぐこととする。1993年前半で記号のリストの修正を終えて、IGS の正式な文書とする。

32) 次回の理事会は、1993年10月19-20日、ミラノで開催する。

(以上)

## 京都の IGS ?!

IGS の役員会、理事会、国際シンポジウム IS Kyushu '92 と、福岡での過密スケジュールをこなして東京への途上、IGS 理事数名は忙中閑ありと、京都観光の一日を楽しみました。お決りの観光コースも悪くはなかった様子でしたが、ある土産物屋でくわした IGS のマークは IGS 理事諸氏のいたく感興をそそったところ。ロウ会長（下の写真）も、燦然と金色に輝く IGS のロゴ入りのお皿に頬すり寄せんばかりに御満悦の様子。因に、この IGS は、京都商工会議所認定 International Good-will Shop（国際親善の店）の略称とのことでありました。 [赤木俊允]



—IS—Kyushu '92 シンポジウムの報告  
記事p. 32



IS-Kyushu '92で挨拶される落合教授